

## 障害者支援施設 みさき福祉園 令和7年度 地域連携推進会議 議事録

日時: 令和8年1月22日(木) 10:00～11:30

場所: みさき福祉園 会議室

出席者:利用者(代表)、家族(代表)、地域関係者、行政関係者(美咲町福祉しあわせ課)、福祉関係者(津山地域障害者基幹相談支援センター)、施設職員(統括施設長、管理者、支援課長)

### 1. 開会挨拶

管理者より開会挨拶があり、本会議は施設の状況をご理解いただき、地域の皆様や関係者の方々に施設をご紹介する機会として開催された旨の説明があった。普段の生活の様子や利用者の過ごし方を知っていただく場としたいとの趣旨が述べられた。

### 2. 出席者紹介

参加者全員による自己紹介が行われた。

### 3. 地域連携推進会議の目的と役割の説明

統括施設長より、以下の説明があった:

- 本会議は今年度から国の指針により必須となった取り組みである
- 入所施設とグループホームを対象とし、外部の目を取り入れることで施設運営の透明性を高め、支援の質を確保することが目的
- 会議の4つの目的:①利用者と地域との関係づくり、②地域の人への理解促進、③透明性・質の確保、④利用者の権利擁護
- 情報共有、意見交換に加え、施設見学を通じて実際の環境や運営状況を確認いただく

### 4. みさき福祉園についての状況報告

管理者より、以下の報告があった:

事業所概要

- 開設:平成4年4月1日
- 定員:50名(現在49名が入所)
- 種別:障害者支援施設(生活介護・施設入所支援)

利用者の状況

- 入所人数:男性35名、女性14名
- 平均年齢:全体46.4歳
- 障害支援区分:平均5.71

#### 職員構成

- 合計 28 名(管理者、医師、看護師、事務員、サービス管理責任者、生活支援員 23 名、栄養士)

#### 支援の状況

- 日中活動は屋外グループと屋内グループに分かれて実施
- 夜間は夜勤者 1 名と宿直者 1 名の体制
- 部屋担当制:支援員 1 名が利用者 4 名を担当
- 季節行事(お花見、七夕、日帰り旅行、クリスマス会等)や月例行事(誕生会、バンド演奏、手作りおやつ等)を実施

#### 医療機関との連携

- 利用者健康診断を年 2 回実施
- 内科、精神科、歯科等の受診状況について説明

#### 施設としての課題

- 利用者の高齢化への対応(身体機能低下、医療受診増加)
- 行動障害のある方への対応力向上
- 家族の高齢化への対応(成年後見制度の利用や外泊機会減少等)
- 人材確保および職員定着
- 夜間支援体制の見直し(2 名体制への移行検討)

今年度の取り組みとして、職員定着に向けた職員面談機会の増加、新人職員育成方法の見直し、業務効率化(一部業務への AI の試験的導入)等を実施している。

#### 事業継続計画(BCP)について

- 自然災害や感染症に対する事業継続計画を策定
- 避難訓練実施:火災想定訓練、地震想定訓練を各 1 回実施
- 事業継続計画研修:机上訓練(7 月)、実働訓練(11 月)を実施

#### 施設等・地域との連携

- 美咲町社会福祉法人連絡会「あったかこころネットみさき」へ参画
- 今年度は美咲町社会福祉大会への出店応援に参加(10 月 6 日)

#### 虐待防止の取り組みについて

令和 7 年 7 月、みさき福祉園にて夜勤職員による虐待事案(身体的虐待・不適切な身体拘束)が発覚し、施設から行政へ通報を行った。通報後は行政からの調査に協力し、全職員への聞き取り、被害利用者家族への謝罪、該当職員の処遇決定、家族会や地域への報告等を行った。

県から令和 7 年 10 月 8 日付で令和 7 年 11 月～令和 8 年 1 月までの 3 ヶ月間、新規利用

者の受け入れ停止処分を受けている。

現在は法人全体で再発防止に取り組んでおり、外部研修への職員派遣(10月17日、1月7日～8日)、外部講師を招聘しての研修実施(11月6日)、夜間勤務者へのアンケート調査、職員面談による支援課題や困り感の把握等を行っている。また、虐待防止委員会は今年度2回、身体拘束適正化委員会は今年度3回実施し、委員会の内容について法人全体で共有を図っている。

## 事故・ヒヤリハットの状況

主な傾向:

- 転倒・接触・衝突事故が中心で、日常生活動線上(歩行介助中、食堂、トイレ、浴室等)で発生
- 他利用者の突発的行動や支援中の抵抗が要因となるケースがある
- 見守りが弱くなりやすい場面(朝礼・引き継ぎ時、入浴準備中、トイレ利用時等)で発生
- 身体的・行動特性(加齢、動作の不安定さ、拒否行動、急な動き等)が背景要因

主な対応策:

- 見守り体制の見直し(朝礼・引き継ぎ時でも現場の見守りを確保、単独対応を避け職員連携を重視)
- 支援方法の基本徹底(マニュアルに沿った支援の再確認、行動予見を前提とした声かけ・位置取り)
- 環境調整によるリスク低減(待機場所や動線の工夫、施設管理の徹底、手すり・滑り止め等の活用)
- 個別支援と情報共有(不穏・粗暴行為の兆候をヒヤリハット段階で共有、新任職員への特性説明)
- 専門的検討の実施(再発リスクが高いケースはケース会議で支援方法・環境を見直し)

## 5. 会計概要について

2024年度の収支状況について報告があった

日々の運営に関する収支は黒字を確保しているが、人件費や修繕費等の費用が増加傾向にある。建物の老朽化に伴い修繕費が年々増加しており、今後も費用の動向を丁寧に管理していく必要がある旨が説明された。

## 6. 近隣からの苦情等の共有

地域関係者より、最近は特に地域からの苦情等はないとの報告があった。施設側からも、以前は利用者が施設外に出られることがあったが、最近はそのような事案も見られないこ

とが確認された。屋外ウォーキング運動時の音楽についても特に問題ないとのことであった。

## 7. 質疑応答

主な質疑内容:

Q: 夜間支援が必要な利用者は何人か? また、起床準備や就寝準備に支援が必要な方はどの程度いるか? (福祉関係者)

A: 夜間のトイレ介助やおむつ交換が必要な方は約 10 名程度。起床準備・就寝準備に支援が必要な方も同程度で、6~7 割の方はご自身でできる。現在は夜勤者 1 名、宿直者 1 名の体制だが、虐待事案を受けて 2 名体制への移行を検討している。職員アンケートでも早朝の対応集中や排泄介助での負担感、不安感が報告されており、体制見直しを進めている。

Q: ヒヤリハット報告が 10 月・12 月に多い理由は? (福祉関係者)

A: 10 月・11 月頃から新任職員が入り、新しい目で気づいたことを積極的に報告してくれるようになったため。ヒヤリハットは前向きな仕組みであり、気をつけようという意識の表れとして評価している。

Q: 外泊の迎えに来た時に、新しい職員に対して声をかけるようにしている。丁寧に報告してくれることが嬉しい。新しく来られた職員には一通り声を掛けさせてもらった。(家族代表)

A: ご家族からの声かけは職員にとって励みになる。新しい職員が定着することが課題であり、長く勤めてもらえるよう取り組んでいる。

Q: 外出はどのような場所へ行っているか? (行政関係者)

A: 現在は個別外出が中心。秋の旅行は 4 グループに分けて、それぞれの利用者に合った場所を選択して実施した。以前は全員一緒に日帰り旅行をしていたが、安全面や利用者の状況を考慮し、小グループでの対応に切り替えた。訪問先の例として、そうめん工場の見学と食事などがあった。

Q: 建物の老朽化と修繕費の増加について、将来的な建て替え等の計画は? (地域関係者)

A: 開設から 30 年以上経過し、水漏れ等の修繕が増加している。快適な生活環境を維持するため必要な修繕は行っていくが、建て替えには多額の費用が必要となる。今後の検討課題である。

利用者からは、「困ったことはない。旅行はそうめんを食べに行った。ごちそうを食べにいたり、買い物をしたりたい。」との思いを伺った。

その他、行動障害のある利用者への対応について意見交換があり、岡山県の発達障害支援センターのコンサルテーション活用などについて情報共有がなされた。利用者の高齢化に伴う車椅子対応の必要性についても今後の課題として認識された。

## 8. 施設見学

参加者全員で施設内を見学した。見学後、チェックシートに記入いただき、以下の感想が述べられた:

#### 良いと感じた点

- 家族代表: 利用者がのびのびと生活ができていました
- 福祉関係者: きれい、おだやかな雰囲気でした
- 行政関係者: きちんと整理されていたし、スペースも広々と利用できるようになっていると思いました

#### 気になった点・今後の課題

- 地域関係者: 特に気になることはない
- 福祉関係者: 日中活動スペースが利用者の人数に対してやや手狭に感じた。また、今後の利用者の高齢化に向けた車椅子対応の検討が必要ではないか
- 行政関係者: 修繕のお話も出ていましたが、イスなどの破損があるところが少し気になりました。全体的には清潔でよかったと思いました

施設側からは、外部の方の新鮮な目を見ていただくことの重要性が改めて認識され、今後も地域との連携を深めていきたいとの意向が示された。

#### 9. 閉会

管理者より謝辞があり、11 時 30 分に閉会した。引き続きよろしくお願ひしたいとの挨拶があった。

---

以上